

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	農業経済学Ⅰ						授業形態		講義	
科目コード	251700	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員			アクティブ ラーニング	
担当教員名	姜 暉求								ICT活 用	
授業概要	農学部が、経済学から、日本農業の全体像及び各種農業政策が理解できるように。そのために授業は、ミクロ経済学の生産者行動・消費者行動・市場分析に関する基礎理論を学び、その理論を日本農業の発展過程、農業生産に関わる政策、農産物の消費などに照らしながら、日本農業経済を理解する。									
関連する科目	履修前：経済学。 同時履修：農産物流通原論 履修後：農業経済学ⅠⅡ、農産物流通論。									
授業の進め方 と方法	ミクロ経済学の理論を学んだ後、各種報告書やデータを理論の観点から考察する。受講生による課題発表も取り入れる。									
授業計画 【第1回】	農業経済学のカバー範囲と農業関連産業・みどり食料システム戦略について学ぶ。									
授業計画 【第2回】	生産関数（農産物生産と要素投入間の関係）を用いて、農業発展・技術進歩の概念、教育・研究の重要性について学ぶ。									
授業計画 【第3回】	協同農業普及事業は、日本農業発展にとって最も重要な新技術普及を担っている。農業発展過程における協同農業普及事業の役割及び現況について学ぶ。									
授業計画 【第4回】	生産者利潤最大化行動分析に必要な生産関数・費用関数・利潤関数について学ぶ。									
授業計画 【第5回】	4回目の続き。 （生産者利潤最大化行動分析に必要な生産関数・費用関数・利潤関数について学ぶ）									
授業計画 【第6回】	農業基本法制定以来の農業経営体（農産物生産者）の変遷及びそれに対する政策、農業経営体が持っている労働力、資本、農地が如何に変化し、現状はどうなっているかについて学ぶ。									
授業計画 【第7回】	農地制度の変遷と担い手への農地集積政策について学ぶ。									
授業計画 【第8回】	スマート農業に現状と政策について学ぶ。									
授業計画 【第9回】	農業資材産業について学ぶ。									
授業計画 【第10回】	農産物消費の基本となる消費者の効用最大化行動について学ぶ。									

授業計画 【第11回】	農産物の中間需要（外食・食品加工需要）と家計需要の変化について学ぶ。
授業計画 【第12回】	農産物市場分析に最も基礎となる完全競争市場について学ぶ。
授業計画 【第13回】	多くの農産物市場は完全競争市場に近いが、加工食品・農業資材は完全競争市場でないことが多い。不完全競争市場（独占・寡占・独占的競争市場）について学ぶ。
授業計画 【第14回】	米の生産基盤変化、主食用米の減産政策及び他用途米生産、家計内外の米需要動向について学ぶ。
授業計画 【第15回】	14回目の続き。 米の生産基盤変化、主食用米の減産政策及び他用途米生産、家計内外の米需要動向について学ぶ。
授業の到達目標	農業経済学を専攻としない農学部学部学生が、日本農業を経済学の視点から理解すること。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	農林水産省のウェブサイトなどを使って、農業経済関連事情を知識化する。
授業時間外学習【復習】	農林水産省のウェブサイトなどを使って、農業経済関連事情を知識化する。
課題に対する フィードバック	小テストと課題について解説する
評価方法・基準	中間テスト（30％）、課題（20％）、期末テスト（50％）で評価する
テキスト	資料を配布する。
参考書	1. 農林水産省、「農業白書」各年度。 2. 暉峻衆三 編「日本の農業150年」有斐閣ブック、2013年。 3. John B. Person Jr ほか「Introduction to Agricultural Economics-5th ed.」Prentice Hall, 2010.
備考	ノートパソコンを持参すること。